



はなもみじ

平成22年
11月9日

屋代
小学校

春秋ごまごま旬うなり

全校参観日(人権教育)

～ 8日(月)参観ありがとうございました。～

なかよし旬間にあわせて参観日・学級懇談会を実施しました。各学級では、学年に応じて、子どもたちの心が響き合う授業が行われていました。



低学年は、紙芝居等の読み聞かせを楽しみに聞き、お話を振り返る中で、動物や登場人物の気持ちを考え、思いやりの大切さを学びました。



中学年は、友達のことよいところを探したり食事について考えたりして、身近な人権意識を高めました。『あけぼの』を扱った学級もありました。



高学年は、ロールプレイやエンカウンター等も取り入れ、自分自身を振り返りました。これからのあり方をより深く考えることができました。

人権とは：人が人らしく幸福に生きていくために最低限必要な権利であり、だれもが生まれながらにしてもって、だれからも侵されることのないものです。すべての人間は、人間として尊重され、自由であり、平等であり、差別されてはなりません。

自らの課題とすること：人権問題を抽象論や他人事にするのではなく、自分の生活と結びつけながら、自らの課題とする取組が必要です。

心の痛みに共感すること：知的理解も大切にしながらも、人権課題の現実に学び、相手の心の痛みに共感できるような学習が必要です。

主体的に課題を解決していくこと：子ども自身が具体的な課題と出会い、主体的に解決していく過程が大切です。

コミュニケーション能力を育成すること：課題を解決するために、お互いの心を通い合わせる実践的なコミュニケーション能力が不可欠です。

資源回収にご協力ありがとうございました!!

6日(土)本年度2回目の資源回収が無事終了しました。施設厚生部員さん、各支部長さんをはじめ、大勢の方々のご協力のおかげで、今回も多くの資源がチューリップ広場に集められました。収益につきましては、PTA理事会で検討いただき、学校教育環境整備に活用させていただきます。



P T A 講演会 講師：教育・食育アドバイザー 大塚 貢 先生(元真田町教育長)
演題 『食で変わる心と体 ~ やればできる 非行ゼロが 学力向上が ~ 』

食生活の変化から生活習慣病予備軍が増加

厚生労働省の調査では、高校生の4割超、信大医学部の調査では、中学生の約37%が生活習慣病の予備軍であるとの報告があります。癌発症の低年齢化、心臓や脳疾患の増加等で、医療費は年々増えていきます。国や市町村の負担が増加し、家族の負担も大変なものとなります。これからは、心と体が元気になる方法を考えることが必要です。

非行防止・学力向上は授業と食生活の改善から

平成4年、荒れた学校に赴任した私は、まず、分かる授業・できる授業となるように、授業改善に取り組みました。先生が努力してよい授業をすると、今までうつ伏せていた子どもたちの背筋が伸びてきました。学校にひきつけられてきたのです。

それでもよくならない子がいました。部活動の大会で弁当を見ると、コンビニの弁当やカップヌードル、菓子パンとジュースを食べている子どもがいることに気づきました。子どもたちは、今日は何が入っているかと思って弁当を広げます。そこで、期待や感謝、親への思いや家族の絆を感じます。しかし、買った弁当には、それがありません。また、好きなものだけを食べていれば、必要な栄養が取れず、切れやすくなったり、無気力になったりすることも心配になりました。

手作りのバランスのよい食事が子どもを健やかに育てる

食生活の調査をしてみると、朝食をとらない子、肉類や菓子・ジュース等が中心の偏った食事をしている子が多いことがわかったのです。3~4割が、朝食を食べていない。夕食から給食まで、何も食べていないのですから、一番エネルギーが必要な時間に力がわいてこないはずです。イライラして、切れる、いじめをする、勉強する気になれない等、心も落ち着きません。また、食べてきても、朝食は菓子パンやジュース、夕食は焼肉やカレー等で、カルシウムやマグネシウム、亜鉛やビタミン等が十分摂取できないメニューです。

家庭に任せるばかりでなく、学校給食でも、米飯と魚を多くした和食献立を工夫しました。農薬や添加物が少ない食品選びにも心がけました。こうして、食生活が変わることによって、学校からは、タバコの吸殻がなくなり、不登校が減少し、図書館がにぎわうようになりました。善悪の判断ができるようになり、自らから学ぶ意欲がうまれたのです。

心にうるおいを与える学校環境に

犯罪を起こした子どもの出身校を訪れると、学力伸ばしていても、学校が寒々していると感じることがほとんどです。花を大切にしている先生や子どもがいる学校づくりも大切です。

